

【分校】 令和4年度 京都府立綾部高等学校（分校全日制） 学校経営計画（スクールマネジメントプラン） （計画段階）

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）		
・学力の向上と希望進路の実現 ・基本的生活習慣の確立 ・基本的人権を尊重する態度と豊かな人間性 の育成 ・健康及び体力の維持・向上 ・地域社会から信頼される学校づくりの推進		<成果> ◇新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、地域との連携事業の多くが縮小や中止となった。そのような中でも、即売会と東祭の販売においては感染予防の対策をしながら、ほぼ例年と同程度の取組を実施するなど、特色ある学校づくりを推進することができた。 ◇学校農業クラブの行事も縮小されるなかでも、情報処理競技会や資格取得、オンラインでの学習発表会等、成果を上げることができた。また、農業クラブの大会では意見発表の部において日本学校農業クラブ全国大会に出場を果たすことができた。 ◇産学連携の酒づくりプロジェクトや菊人形の制作など新たな取組を始めることができた。 ◇保護者や中学生等への広報は、タイムリーなホームページの更新を心がけた。全国農業高校・農業大学校デジタルコンテストホームページ部門で一次審査の結果、優秀と認められ京都府の代表に選ばれた。 ◇個に応じた丁寧な進路指導を低学年から計画的に行い、就職率100%を達成することができた。また、進学においては国立大学に1名合格することができた。 ◇登校時と朝のS H Rでの健康観察により、生徒の健康状況を丁寧に把握する等、新型コロナウイルス感染症拡大防止に努めた。 ◇I C T機器の整備が進み、I C Tを活用した授業改善や業務改善につなげることができた。 <課題> ◆家庭への連絡等はより一層丁寧にし、信頼される学校づくりに努める必要がある。 ◆安全・安心な学校環境づくりを心がけ組織的な取組により落ち着いた学校づくりに努める。 ◆ホームページ等で情報発信をしているが、それを見てもらう工夫が必要である。 ◆地域・関係機関・各種団体等との連携を更に強めるとともに、由良川キャンパスの特色のP Rに努め、生徒募集の充実を図る。 ◆新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかった生産物の外部販売をコロナ禍においていかに工夫していくかが今後の課題である。 ◆4 S運動は教職員の意識の高まりとともに定着してきているが、より一層推進していく必要がある。	■ A・G・P（Ayabe Global Program）の推進 〈スマートスクール〉 ・ICTを活用した授業 ・BYODを活用した授業 ・ロイロノートの活用 ・スタディサプリの活用 ・ONLINEの活用 ・ペーパーレス化（Slack） 〈探究活動〉 ・思考力・判断力・表現力の育成 ・海外高校生との交流 〈地域発信〉 ・アンネのバラ園を拡充 ・地域でのボランティア活動 ・生産物の外部販売を推進（西町アンテナショップでの販売） ・綾高ブランドの開発 ・地域での部活動発表 ・地域でのボランティア活動 〈連携事業〉 ・京都先端科学大学 ・福知山公立大学 ・京都工芸繊維大学 ・京都工芸繊維大学 ・同志社大学 ・京都府立農業大学校 ・地域企業とのコラボ ・農業体験授業 ■ 3 Q・4 Sの推進 3 Q 〈Quality Teacher〉 教師としての資質向上 〈Quality School〉 教育内容の充実 〈Quality Students〉 未来を切り拓く人材の育成 4 S 〈整理>〈整頓>〈清潔>〈作法> 整理整頓を心がけ、清潔な職場・学習環境を整える TPOに応じた言動を心がける 明るく元気に、笑顔がある学校 ■学校農業クラブの活性化		
	項目（重点目標）	具 体 的 方 策 及 び 数 値 目 標	評価	成 果 と 課 題	
組織運営	魅力のある学校づくり	これまでの農業関係推進事業を生かし、官・民・学との連携を一層充実する。			
		在校生や保護者にタイムリーな情報発信に努める。また、中学生とその保護者、地域の方々に本校の教育活動を理解していただくため、広報活動を充実させる。			
教務部	学習意欲の向上と授業規律の充実	生徒の学習意欲を高め、学力が向上する学習環境作りを進める。			
		定期考査前の1日平均の家庭学習時間（分）を100分以上となるよう指導する。（100分以上ならA、80分以上ならB、それ以下ならCとする）			
総務企画部	生徒募集	由良川キャンパスの魅力を、学校案内や通信・HP等を通じて、中学生へアピールする。			
		中学生向け学校公開を年4回、中学校教員向け学校公開を年1回実施し、その内容を充実させ、学習内容を十分理解した上で入学できるよう工夫する。			
生徒指導部	自らの行動を振り返りながら新しい目標を作り、主体的に行動に移していける力を育てる。	授業を大切に、机脇にかけたスマートフォン袋の積極的活用に取り組む。			
		生徒指導部預かり件数 5件以内：A 10件以内：B 11件以上：C			
進路指導部	生徒の希望進路の実現に向けて細やかな指導を行う	職員室の出入り口で正しい挨拶や返答ができるよう習慣化する。			
		進路に関する様々な情報を的確につかめるように、連携を密にして情報を共有する。			
保健部	健康を自律的に管理できる力の育成	希望進路の100%実現に向けて、求人開拓や進学指導を進める。			
		保健学習や委員会活動を通して、自らの健康について考えさせる。			
農場部	農業クラブ活動の充実を図る	自分の健康状態を管理し、感染症の予防に努める生活を指導する。			
		農業クラブの大会や各種コンテストなどの入賞を目指す。			
		資格取得率の向上を目指す。			

第1学年部	学力の向上	評定平均4.0以上の人数を指標として、一人ひとりの評定平均の向上を目指す。 A：10人以上　B：9人～6人　C：5人以下			
第2学年部	学力の向上	進路選択の幅を拡げるため、積極的に資格取得に取り組むように指導する。 進路を考えさせる中で、自主的に学習に取り組ませ、個々の学力向上を目指す。 基礎学力補償の時間を大切に、基礎学力を定着させ、不認定科目0を目指す。			
第3学年部	進路の決定	生徒一人ひとりに応じた進路指導を心がけ、全生徒の進路決定を目指す。 進路について自ら考え、目標を明確にする。			
国語科	基礎的な学力の確実な定着	小テスト、学習課題を活用し、定期考査平均60点を目指す。 アクティブラーニングなどを通して、自分の考えや意見をしっかり持てるようにする。			
地歴公民科	学習習慣の確立	教科書に即したプリントなどを活用し、わかりやすい授業となるように努める。 JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテストに応募し、SDGsと関わる思考力・判断力・表現力を育てる。			
数学科	学力向上	演習補助プリントを年間20枚作成し、反復練習を充実させることで学力の定着をはかる。 不認定生徒をゼロにする。 定期考査ごとに回収する提出物の回収率を100%にする。			
理 科	学力向上	生徒が理科に対して興味を持ち、理解しやすい授業展開を工夫する。 プリントや問題演習を多く取り入れることで復習の機会をつくり、内容の定着を図る。 放課後などを利用して、適宜補講を行い、検定や資格習得及び学力の向上に努める。			
保健体育科	生涯体育につながる資質や能力の育成	意欲的・主体的に運動に取り組む。 各授業の中で、体力向上のための時間を設定する。 正しい服装、整列やあいさつなど、授業規律を確立する。			
家庭科	自立に必要な力の育成	ICTを効果的に活用し、ユニバーサルデザインの視点を持った分かりやすい授業を構築する。 実践力を身につけるために、授業の50%を実験・実習にあてる。			
英語科	基礎的な学力の定着	小テストを定期的に実施し、基本的な知識の定着を図る。平均点6割以上を目指す。 英語を使って表現しようとする態度を養う。 音読や暗唱をさせ、英語を口にすることに慣れさせる。			
芸術科	基礎技術を充実させ自ら表現しようとする意欲を育てる	生徒一人ひとりの能力の掌握に務め、基礎的な内容から高度な内容まで表現できる幅を広げさせる。 表現活動を適切に評価できるように指導と評価の分析に注力し生徒の意欲向上へつなげる。 授業時間を有効に活用し、授業規律を大切にする。			
農業科	基礎・基本の定着を意識した専門教育の充実	ICT機器を効果的に活用しつつ、農業の基礎・基本の習得を意識した授業展開を行う。 定期的に提出状況の確認を行い、適切な指導を行う。 各考査時の記録簿提出遅れ　A：0～1人　B：2～4名　C：5人以上			
園芸科	専門教育への学習意欲の向上を図る	各専攻の学習や実習を充実させ、生徒が興味・関心を持ち取り組む教科指導を行う。 地域との連携事業を積極的に行い、生徒に自信を持たせる取り組みを行う。 事業参加数5人以上：A　　3～4：B　　2以下：C			
農芸化学科	特色を活かした専門教育の充実	新カリキュラムの実施に伴い、各授業内容の充実を図る。 専門的な知識・技術が習得の深化を図ると共に、資格取得への意識を高め、合格率100%を目指す(100%以上ならA、100%未満95%以上ならB、それ以下ならCとする)。 即売会などを通し、生徒のコミュニケーション能力及び学習意欲を向上させる。			